

平成22年度第2回子ども読書活動推進計画策定委員会議 議事録

日 時	平成22年8月27日（金）14：00～16：00
場 所	福岡市婦人会館 大研修室（あいれふ9階）
出席者	別紙のとおり
議 題	（1）新・福岡市子ども読書活動推進計画（仮称）の 素案について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	1人

1. 開会
2. 教育支援部長あいさつ
3. 議題
新・子ども読書活動推進計画（仮称）の素案について

委員長	事務局から説明を。
事務局	*「新・子ども読書活動推進計画の素案について」説明
委員長	質問や意見はないか。
委員	<p>前回の会議の時に、事務局から具体的な案があればということだったので、事前に意見を送りお手許にお渡ししている。5年間の計画では、途中でなるべく達成が確認できるような具体案があればいいのではないかと思います。</p> <p>「ブックスタート」が成果を挙げているが、それは4ヶ月健診でもれなく親の手許に発信できるという機会を有効に利用しているからだと言えると思う。</p> <p>小学校に入ると子どもが字が読めるからと、親が気を許してしまうということが読書離れということにもつながっている気がする。そういうことをお母さん達にもう一度無関心にならないでもらうために、適当に名前を付けたのだが、「ブックスタート」の次で「ブックセカンド」をしたらどうか。小学校に上がってもまだまだ子ども達が本を楽しむには親の手が必要だということを、もれなく発信できるように、就学前健診や学校保護者説明会の時を使うことによって、ただリーフレットを渡すだけではなく生の声で説明することはとても力になることではないかと思う。</p>

そして、図書館に行ったことがないという大人がたくさんいることに驚いた。親子ともに、実際に本がある場所に子ども達を連れて行く行き方を知らないお母さん達がいる。何か具体的な対策として「子どもと図書館へ行こう。」としたらどうか。貸し出しカードをつくるのが、数字でわかるので成果としてわかりやすいのではないかと思う。自分の読書だけでなく子どもの読書の担い手であるという意識を大人（親）が持たないといけないのではないかと思う。

2つ目の「学校で一步」としたのは、先生方に、もっと子ども達を図書室に連れてきていただきたいということ。教室で先生が本の読み聞かせをしてあるクラスは本が好きな子が多い。先生も子どもの読書の担い手という意識を持っていただきたいと思う。図書室をもっと身近に感じていただきたい。

何よりも常勤の司書を望む。これは必ず実行してこそ、誇れる推進計画となるのではないか。

平成16年に子ども読書会議があり、その報告の中に子ども達が考えた「読書の楽しさ」や、「楽しさをみんなに広める方策」というのがあり、子どももヒントを持っているのではないか、そんなところも参考にできるのではないかと思う。

もったいないと思うのは、司書教諭の存在。学級担任のために忙しくて司書教諭として動くことができないという人がたくさんいる。推進計画を策定する中で、司書教諭が「何をすべきか」「何ができるか」「できないことは何か」等意見を交換して、例えば、学級担任を持たない人が司書教諭になる等、決めれば司書教諭が機能し始めるのではないか。そのために、「本の国の番人」というべき行政に専門知識のある人がいると、全体を見渡し、機能できるようになってくるのではないかと思う。そして、図書館からの一步ということで、「図書館に連れて行こう」というようなこととして、社会科見学のようにもっと公立図書館と連携していくとおもしろいのではないかと思う。社会科見学のように、図書館のマナー、おはなし会、そして、図書館の裏の仕事を見せ、苦勞を知る等、図書館を身近に感じてくれるのではないか。そのためには、ボランティアの養成も必要である。

ボランティアは学校からも呼びかけているが、やり方がよく分らないという人が多い。情報交換会や勉強会等で指導していただけるとよい。

大切なことは予算がないとやっていけないので、予算を頑張って取ってほしい。他の地域と比較した資料を出してみるということも大切である。予算がなければ、「もらう」ということも考えて、民間企業の協力・援助をお願いすることも考えるとよいのではないか。

司書を1人でも多く採用してほしい。図書館だけでなく、ブックスタート等においても司書が不足している。相談できる司書がいるとよい。自分はボランティアであるが、あちこちで司書がいてくれたらと思う。司書の増員を一番に、予算の重点施策の中に是非入れてほしい。

委員長

他に質問・意見はないか。

委員

委員の発言を聞き、その通りだと思っている。(計画の)5本の柱が活動

する人達のところに降りてくると、全体としてどこを目指しているかが分らず、バラバラな感じがしていた。今回は、4本の柱ということで、一体化した感じが欲しいと思っている。今回は「つくろう、ことば輝く街」や「共読」等、基本となるキーワードがいくつかあるが、公民館に行っても、ブックスタートに行っても、図書館に行っても、学校に行っても、どこに行っても同じキーワードを使っていて、同じものを目指すということが分るように、一体感がほしい。前回の計画で言う「毎月23日は子どもと本の日」とあるが、部分的には浸透したと思うが、だんだん影が薄くなってきている。福岡市はどこに行っても子どもの読書を応援しているということが打ち出せるようお願いしたい。

委員長

今のは大事な指摘だと思う。他に質問・意見はないか。

委員

2点ある。1点目は16ページの重点施策の中の「障がい児への図書の貸出」で、来館が困難な子どもたちと表現されているが、わかるように表現した方がよい。

2点目は、「学校における読書活動を推進します」とあるが、体系図では「特別支援教育における読書環境の充実」と書いてあるが、重点施策の説明はなく、整合性がわからないので、説明してほしい。

経験から、障がいのある子は、本物が出てくると反応する。例えば、読み聞かせのボランティアの生の声はいつの間にか聞き入っている。音楽では、スピーカーを通した音だと、反応が激しく、嫌がっても、生の演奏を聴かせるとすうっと聴ける。途中で機械が入ると受け入れるのが難しいのかなと感じている。Ⅱのところ例えば「特別な支援のいる子ども達への共読の推進」等、入ると重点施策と体系図との整合性が図れるのではないかと思う。

委員

今まで沢山貴重なご意見をお聞かせいただいたので、言い尽くされているかもしれない。最近、大阪の虐待の事件等聞いて、この会は読書活動推進計画の委員会ではあるけれど、そのなかの「ブックスタート事業」の根本は、親子のふれあい、親子の心のあり方、子どもの健全な成長である。本を読むことが目的ではなく、本を通して心安らぐ時間をつくり、そのことを通して親子の関係をよくして、子どもの心の安定、自尊感情を培っていくところに目的がある。そういうところをもう少し計画の中に表現できないか。読書が中心になるのはもちろんだが、どうして読書を大切にするのかを盛り込んでいただけるとありがたい。

委員

体系図の中のⅡ「学校における読書活動を推進します」の中の継続のところ「司書教諭の配置の充実」がある。年に数回司書の研修会をいただいている。それは有意義であるが、日々の活動をしていく中で、ひとりなので、困ったときに相談する人がいない。今は私的に、区毎の研修を行っている。それぞれの勤務校の校長の許可を得て、学校に集まって研修している。区毎といっても範囲が広く、また、職務が終わってからとなると、小さい子を持つ人は、毎回参加できない人もいる。勤務中に具体的

な研修をする機会と時間と場所を設けていただきたい。継続ではなく、充実に挙げてほしい。

委員長

ここで一旦今までの回答をいただきたい。

事務局

子どもの意見をという件について、前回の策定時は、子ども教育委員会議で反映させた。今回は、中学校の図書委員の意見を聞くことになっている。9月に福岡市中学校生徒図書委員交流会があるので、アンケート等を通して意見交換がある。子どもの意見をそこで反映させていく。

事務局

委員の質問に対して、発達教育センターにお聞きしたが、特別支援学校の中にも図書室があるところ、図書コーナーしかないところ等、環境の違いがある。障がいによっても読書活動の取り組みも違いがある。障がいに合った、その子にあった読書ができるような環境を整備していくことが、障がいをもった子どもの読書活動の推進になるのではないか。例えば大活字本や耳から入るおはなし、手で触る教材等、いろいろある。今、始まったことではなく、ずっとされてきたことなので、継続でやっていただきたいと思う。

事務局

資料作成のことについて、「充実」は「重要施策」と同じ意味で捉えていただきたい。16ページのは「充実」ということで読んでほしい。

委員

「障がい児への図書の貸し出し」についての表現の仕方は、分かりやすい形で文章を作り替えるというところで進めさせていただきたい。今現在もやっている郵便による無料貸出制度がある。障がい者手帳の級にもよりいろいろな障がいがあるので精査していきたい。

委員

研修の充実は大変重要な課題である。充実が意味があって、継続が意味がないということではない。充実で挙げている「学校司書の配置の充実」と「図書館の図書資源の共有化を目指した取り組み」は重点的にやるようにしているが、それ以外の継続事業についても充実と同じように取り組んでいくつもりである。

委員

資料の言葉がバラバラになっているので確認したい。14ページと15ページの「新計画の位置づけと性格」のところに書いているが、前回の計画は61の施策を並べていた。今回は、特に、施策に重点を置いたものについて「重要施策」と表現する。「その他の施策」と分けてどの施策を優先的にやるかということをも市民の方にも分るように書いている。施策体系図を見ると、「充実」としているのは、まさに「重要施策」、「継続」と書いているのは「その他の事業」として読んでいただきたい。今までと同じようにやるわけではなく、縮小することなく、充実していく。4つの分野に分けた最重要施策として挙げているものは、例えば、家庭・地域においては、「読書ボランティアの派遣事業」。これを最も最重点施策として進めていくということ。学校であれば、「学校司書の配置」と「図書館の図書資源の共

有化」の2つを最重要施策として進めるという意味で、「その他の事業」もそのまま同じではない。重点化をはっきり示したい。

委員長

事務局から、以上でいいか。
引き続き、委員からの質問や意見を。

委員

現任校では朝読書について1年間かけて協議し、2学期から実施するようになった。朝読の取り組みが始まって10年位経っているが、策定にあたって、「朝読書を推進しよう」とするような取り組みの後押しができるような計画になったらいいと思う。

次に、前任校では教員が各教科で生徒に本の紹介をしようと勧めてきたが、そんな後押しをしてくれる計画であってほしい。広げていけば、他の大人も子どもに本の紹介をするようなことになったらいいと思う。

今までの意見を「そうだな。」と思って聞いていた。共に育てる、一緒に育てるという気持ちがつくれてない。家は家だから他の家とは別というのではなく、教員と親、教員と公民館等が、一緒にこの子を育てたいという気持ちを持つ施策になったらいい。

IVに「家庭・地域・学校等の連携を推進します。」とある。子ども達をみんな一緒に力を合わせて育てるという気持ちを持つ施策になって欲しいと思っている。

委員

それぞれの委員の話がそうだと思って聞いた。地域にいと、学校と地域文庫、乳幼児の文庫のサークルをスタートさせたが、全部バラバラで活動している。

学校司書が来て学校のボランティアが喜んでいる。とても感謝している。ボランティアは学校司書に相談をしながらやっている。とても助かっている。しかし、公民館の文庫は無関係である。恩恵を受けていない。もし、小学校と地域の文庫と一緒にやっていけたら、一緒に子どもを育てる、一緒に読書活動ができたらと思う。具体的になってくるような計画をお願いしたい。

文庫には新しい本を買う予算が下りてくる。2万円とか、1万5千円とかの少額ではあるが。リサイクルショップで、絵本を買おうとすると、ストップがかかった。少ない予算でやっているところは、古い本でも買っていいという制度があればうれしい。

委員

いまのことに関連して、伝えたいことがもう一つある。ボランティアがバラバラだということを感じている。福岡市ほど、ボランティアにおんぶにだっここのところはないと思う。ブックスタートはボランティアをお願いしているし、学校図書館はボランティアがいないと成り立たない。図書館のおはなし会もボランティアがやっているし、文庫はボランティアが私財を投げ打って頑張っている。その人達は一つではなく、他の団体にも参加している人が多いので、横のつながりがあったりもするが、ボランティアを大きなくくりで組織化することができないか。重点施策の1点目に「読書ボランティアの派遣事業」について書いてあるが、派遣するような名簿

をもっていたとは知らなかった。各区や団体等で情報交換等をおこなって
きてはいるが、いろんなボランティアが情報交換するような組織をつくる
ことは難しいのか。

以前住んでいた東京の東村山市では、読書関係者のボランティア団体の
大きなくくりがあり、連絡会があっていた。講習や学校図書館の応援講座
等を受講すれば、人材バンクからいろんなところに派遣する事業が成り立
っていた。ボランティアにお願いしている福岡市こそ、そういう組織がで
きないかなと思う。

ブックスタートは検診の場で「一冊ずつ取ってください。」としている区
があったが、手渡しとは言えないと思う。ブックスタートの関係団体はこ
ども未来課で4ヶ月健診は保健福祉局で、保健師はどんなスタンスでその
本のことを捉えてあるか分りかねる。

事務局

新規事業で読書ボランティアの頑張りをネットワークにつなげられない
かと思う。これまで生涯学習課はフォーラムや子どもと本の日等、啓発が
中心だったが、読書活動そのものに関わりたいと思っている。現在、名簿
はないので、新たに、登録をしてもらって、地域に派遣するという形がと
れないかと考えている。委員が言われた「バラバラで活動している」件に
関して、私どもも課題だと思っている。IVのところに「子ども読書フォー
ラムの拡充」と書いている。中央で、ひとつ大きなフォーラムをすること
も大事なことで、全市から集まってきて、情報交換することで刺激になる。
しかし、地域の活動団体は地域で頑張っている。日々活動しているところ
で集まりができないかと思う。公民館、文庫の取り組み、読み聞かせグル
ープ、学校を含めて、より身近な場所で小さなフォーラムみたいなことを、
区の中で持ち回りをする等、小さなエリアでのネットワークでフォーラム
等を開催するのもいいと思う。

ブックセカンドのような事業はどこがするかは別にして、魅力ある取り
組みだと思う。関係課で話し合いながら、次の改定素案をつくるときの参
考にさせていただきたい。

委員

ブックスタート事業は子ども未来局が行っている。乳児健診は、保健福
祉局ではなく、子ども未来局で保健福祉センターにある健康課が所管して
いる。お手伝いは助産師がしている。乳児健診の場所がなかなか確保でき
にくいので、混雑していて申し訳ないがその場所をお願いしている。その
ことは課題だと思っている。今後ボランティアとの連携の取り方について
も検討していきたい。ブックセカンドは、3歳児健診を活用してはどうか
とあったが、3歳児健診は、視力、尿の検査も加わり、親だけでなく、子
どもの問診も入るので、3歳児健診の中でブックセカンドを行うのは物理
的に難しい。ご理解いただきたい。

委員

3歳児ではなく就学時健診だと、必ず保護者が来るので、その際行うと
いい。幼稚園児も字が読める子が多い。文字が読めても物語が読めていな
い。物語の楽しさを知らせてあげたい。

- 委員 就学時健診と3歳児健診と勘違いをしていた。ブックスタートはマンパワ一的に難しい点があるが、課題として受け止め、検討していきたい。
- 委員 子どもが本好きになること、自分で手にとって本を読んで本の楽しさを感じ取ってもらうことが、子どもに本を読んであげるボランティアの基本的な目的である。ボランティアをやっていて、最近気づいたことがある。2, 3年前くらいから、「小さいときに本を読んでもらっていないな」「お母さんにだっこされてもらっていないな」と感じるようになった。それで、0才からおはなし会をやるということになった。0才から積み重ねていったとき、お母さんと一緒に楽しんだ子は小学校に行っても本が好きである。しばらく、本から離れていても、大人になってから本に戻る。乳幼児期が一番大切で、0才のころからずっとお母さんとのふれあいが楽しいと、本をまた読もうと思うし、小さいときに親とのふれあいをもっていたら、自分の子どもにも本を読んであげている。
- 乳幼児期の読書環境を周りがたくさんつくるのはいいが、あまりつくりすぎると、親がそれを利用しすぎることにも心配している。それに乗ってしまっ、親自身が読み聞かせをしない場合もあり、読書の楽しみをわかっていない。0才、1才・・・と細かい段階での親のフォローが必要である。
- 委員 ボランティアの件について、総合図書館では、長い間ボランティア養成講座をしてあると思うが、養成講座のときから連携を考えて実施するなど、そういうことも考えていただけたらどうかと思う。
- 委員 毎年講座をやっている。委員が言われたが、運営審議会等でも講座のあり方について意見がでており、見直す時期に来ている。今後検討していきたい。
- 委員 ボランティアの横のつながり、ネットワークについて、(自分の)読み聞かせのボランティアの団体も3年で、32校、36団体いる。どうやってうまくやっっていこうか等、悩みを抱えている団体も多い。今年の夏に2回研修会を実施したが、超満員であった。小さい子どもがいるボランティアが多く、地域での勉強会を希望する人が多い。ボランティアとして、勉強しなければならないといけないと思うが、頑張れば頑張るだけ、学校の図書司書の配置が遅れるのではないかと逆に心配している。ボランティアはプロではなく、司書がいてこそ力添えになるもの。重点施策として、一番に司書の配置をお願いする。
- 実際にボランティアも活躍しており、誇れる状態になっている。横のつながり、ネットワークがあるとよい。
- 委員 小学校のボランティアは熱心で人数も多い。それに比べて文庫のボランティアは少ない。1週間に1度開いていたのが、2週間に1度しか開けない。夏休みも初めに図書を何冊か貸出をして、あとは休んでいる。小学校と公民館文庫が一緒になったらいい。小学校のボランティアが文庫の手伝いをしたり、文庫のボランティアが司書の先生に相談に行けるような環境にな

ったらいい。今のままだと文庫は続けられなくなるのではと思っていたが、「いつでも、どこでも、読みたい本がある環境を整備していきます」と書いてあり、これからも続けなければいけないと思った。人の交流ができれば、公民館文庫も動けるのではないか文庫活動がもっと活発になればいいと思う。

委員

先日学校図書館担当者連絡会があり、その後区毎に分科会を行った。少ない予算で頑張っているということなど、いろいろな意見がでてきたが、最終的にみんなの意見を集約すると、中学校に司書の配置をお願いしたいということだった。1小1中に一人の司書が配置されているが、3小1中のブロックでは、あとの2校の小学校は年間6日間の配置であり、6日間だと何もできないという状況。人数的なものだけではなく、内容的なことも考えていただけたらありがたい。

それと共に、司書教諭は、時間的な措置がなく、週に1時間でも図書の仕事をする時間があれば、もっといろんなことができるという声が多く出た。

委員

公共図書館の立場で、学校図書館をバックアップしたいという気持ちをもっている。図書資源の共有化が手っ取り早い。分館がお手伝いできるのではないかと思う。21年3月まで学校図書館支援センターというモデル事業があったが、その実施は難しいか。現在司書が30人、1小1中、そして中学ブロックの小学校が6時間、司書のいない39校を手助けできるところがどこもない。困ったときに聞けるような窓口がない。今回の計画には支援センターはないが、考えていただくことは難しいか。

委員

学校図書館支援事業は、平成18年度から文部科学省の委嘱事業で、城南区でやっていた。成果は見たが、20年度で終了している。「司書配置の充実」もあって、予算が厳しい。

委員

後39人で中学校69校区に一人ずつになると思うが、配置されていない39ブロックは手つかずのままである。配置されている30人にも困ることがある。窓口みたいなもの、相談できる場所が確保できないか。

委員

司書の配置は30という数は絶対数から考えたら少ない。そういう指摘もある。一番いいのは、全小中学校に配置ができるようになればいい。時間はかかるが、今回の計画を策定されることは、司書配置増加の後押しになる。全校配置はできなくても、全中学校配置に進みたいと思っているが、お力添えをお願いしたい。

委員

中学校の立場からいくと、昨年度から司書が配置された学校は、めざましく図書室が変わった。廊下の掲示物も変わり素晴らしい。でも2年経ったら、司書がいなくなるということなので、2年間活性化してもらって、そのまま、あと2年間今の状態が続けばいいと期待している。今、配置されている30校は来年はいなくなる。今、配置されていない学校は新しく配

置される。司書のいない学校に司書が来てくれればいろんなことができ活性化できる。今より生徒との動きも組織も動けるようになり、ワンステップ上がったものをつくってもらえるのではないかと思う。2年間で堅めたらその勢いで継続していけないかなと思う。現状の方法でいくのであれば、2年間でワンステップ上がったものを2年間なんとか持ちこたえて、また、2年間で上がる。このサイクルが続くのかと思う。全校配置してくれば、それにこしたことはない。

委員長

多様な意見、要望、希望が出た。これらのことを生かして素案を練り上げていただきたい。

せっかく、ご出席していただいているので、教育委員に一言お願いしたい。

教育委員

いろんな意見が出て、18才以下の子ども達が対象だが、赤ちゃんから18才までの幅広い段階で読書が必要だというのがよくわかった。

一番最初にやらないといけないのは、学校司書を増やすこと。これは、教育委員会がやっていかなければならないことだと思う。

それと同時に委員が言われたように、今一番感じていることは、赤ちゃんのお母さんがとても大変な状況にある。子ども未来局の方々と一緒にできないことで、赤ちゃんのところからやっていかないとどうにもならないと思っている。

毎月、4～5校の学校に行き、読書ボランティアのお母さん方とも話すことがあるが、先日衝撃を受けたことがある。そういうところに来ているお母さん方はある程度読書の大切さが分っているはずだと思うが、そんな中で、「読書、読書と言われているけど、そんなに大切なことなのでしょうか。自分たちが育っているときはそんな話はなかった。」と言われた。「今は全然状況が違う、ゲームやインターネット等があり、今の状況は危機的な状況であり、大人は心してやっていかなければならないと大変なことになる。」と伝えたら、納得してくれた。

ここにいる方は、読書の大切さが分っている方ばかりだが、他の人は、もしかしたら、半分以上の人がそんなにわかっていないのではないかな。あらゆるところで、読書の大切さを伝えていかなければならない。教育委員会的には、「学力を付ける」ということが大きなことだが、それより前に、子ども達がどうやって自分の足で立って生きていくか、充実した人生を生きていけるかということで、そういう子ども達を育てることが教育委員会の仕事だと思う。それに学力を付けることは一番大事なことだけど、それと同時に心を育てていくことがとても大事だということ、それを伝えていかないと、わからない人たちがたくさんいるということを感じた。

皆さんの意見を聞きながら、少しでもそういう方向にもっていけるように努力したい。

委員長

先日、ある本で「2012年に日本からマスメディアが消える。」という衝撃的な記事を読んだ。紙媒体だけでなく、テレビも消える。インターネットに囲い込まれるようだ。新聞を読まない人も多いようだ。広告もインタ

ーネットに取られて、テレビ、新聞も取られ、兵糧攻めにあっている。私たちの世代は、紙媒体は基本ベースである。子どもを育てることとの関連でも重要な意味を持っている気がする。今回の意見，要望を生かし，10月に向けて頑張っていたきたい。

4. その他 事務連絡
 - (1) 次回日程について
 - (2) 子ども読書フォーラムについて
5. 教育支援部長あいさつ
6. 閉会

終了

第2回子ども読書活動推進計画策定委員会議出席者名簿

平成22年8月27日

【子ども読書活動推進計画策定委員会委員】

委嘱区分	所 属	氏 名
学識経験者	佐賀女子短期大学准教授	白根 恵子
社会教育関係者	福岡市社会教育委員会議委員長	松尾 祐作
学校教育関係者	中学校図書館教育委員会会長(元岡中学校校長)	花木 成慈
	司書教諭(春住小学校教諭)	池田さくも
	学校司書(高取小・高取中)	片桐由美子
	特別支援学校長(東福岡特別支援学校)	小関 正利
ボランティア活動者	ブックスタートボランティア(絵本ふれあいタイム早良区代表)	田中 兆子
	学校図書館ボランティア(福岡市学校図書館よみきかせボランティアネットワーク)	甲斐 景子
	図書館おはなしボランティア(福岡おはなしの会代表)	八尋 理恵
	地域文庫活動者(小田部文庫)	鑪 しずこ
図書館関係者	図書館司書(総合図書館読書相談員)	小久井明京美
書店組合	書店組合代表(福岡県書店商業組合理事長)	山口 尚之
子ども行政	こども未来局こども部こども発達支援課長	西野 達彦
	子育て支援部保育所指導課長	福嶋 利明
コミュニティ行政	市民コミュニティ推進部公民館支援課長	北崎 博三
教育行政	教育委員会教育支援部学校支援課長	橋爪 秀三
	指導部学校指導課長	長谷川弘明
	総合図書館図書館図書利用課長	大串 計司
	教育支援部生涯学習課長	安部 修
計		19名

【事務局】

役 職 名	氏 名
教育委員	貝田 由紀
教育支援部長	西山 眞弓
生涯学習課生涯学習係長	合屋 四郎
生涯学習課社会教育係長	大森 哲子